

上：「平左」^{へいざ}と屋号を持つ御師^{おし}の家　〔写真提供：上杉光明氏〕

下：同じく御師^{おし}であった石徹白伊織^{いとしろいおり}家の平面図　〔図面所有：郡上市〕

かつて白山信仰が盛んであった頃、石徹白は、村びと全てが社家^{しゃけ}・社人^{しゃじん}として白山神に仕えていました。中でも、上在所に暮した人たちは、社家として白山中居神社の祭礼・神事を司る一方で、御師として全国に白山信仰を広めました。

御師は、夏は、白山へ登る人たちの宿坊を営みながら道案内をし、冬は、白山神の羽織袴^{はおりはかま}に帯刀を許され、雷除けの護符に牛王札、白山の薬草、白山略図を持って、各地の檀那場を回りました。

石徹白では、明治3年頃まで、こうした御師の活動が活発であったようです。

(明治初年の神仏分離令で急速に白山信仰は衰退し、御師の活動も停滞しました)